



大 阪 大 学
社会技術共創研究センター

年次報告書 2023

2023.04.01-2024.03.31



目次

組織概要	p.3
学内連携 学内組織／研究者との連携	p.4
学内連携 教育プログラムの提供	p.8
学内連携 ELSI共創プロジェクト研究活動費の公募	p.9
学外連携 産業界との連携	p.10
学外連携 アカデミアとの連携	p.14
主なイベント（シンポジウム、ワークショップ等）	p.16
国際的活動	p.21
発行物	p.22
ELSIセンターが取り組む人材育成	p.24
広報活動	p.25

組織概要

組織（2024年1月現在）

総合研究部門（福田雅樹 部門長）6名（兼任 20名、招へい 6名）

実践研究部門（岸本充生 部門長）12名（兼任 17名、招へい 4名）

協働形成研究部門（八木絵香 部門長）4名（兼任 4名、招へい 4名）

3つの部門と4つの機能

総合研究部門

方法論やガバナンスの在り方等について総合的に研究する。

実践研究部門

学内・学外の研究者・事業者と連携し、共同研究プロジェクトを形成・推進する。

協働形成研究部門

学外のステークホルダーをつなぎつつ、幅広い市民の声を産業界・行政機関等につなぐ。

3 部門長 + 約19名（専門分野も多様）

情報通信法、ロボット法、国際私法、法理学、産学連携、憲法、リスク学、科学技術社会論、科学社会学、科学技術政策、臨床哲学、倫理学、社会学、情報の哲学、顔認証技術、人類進化学、人類学、情報学、科学コミュニケーション、ヒューマンファクター研究、科学教育、動物行動学、音楽学・・・

ELSI人材の育成

3部門が連携し、ELSI教育プログラムを開発。
ELSI人材を創出し、社会の中での定着を目指す。



学内連携

学内組織／研究者との連携

1

大阪大学COデザインセンターとの連携（＊継続）

- COデザインセンターが提供している副専攻プログラム／高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」（STiPS）と連携し、授業やイベントに、ELSIセンターメンバーが参加・協力
- COデザインセンターが2023年度から新規に提供を開始した高度副プログラム「科学技術と倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」と連携し、ELSIセンターメンバーが講義に参加・協力
- セミナーシリーズ「つなぐ人たちの働き方（2023年度冬）」（授業「実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション」の一環として実施）
- 授業「研究手法入門」へのゲスト講師派遣

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）との連携（＊継続）

- SSIが主催する第6回SSI研究者フォーラム「コミュニティにおける『物語』や『ルール』を紐解く -民俗学・教育社会学・倫理学の経験から-」（2023年5月29日開催）に協力し、ELSIセンターメンバーが話題提供
- 2023年度にリニューアルオープンした中之島センターの5階をSSIとELSIセンターとが共同で管理

中之島芸術センターとの連携（＊新規）

- 中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える」を2回開催
 「アート×ELSIを考える vol.1」（8/21 @中之島センター）
 話題提供1「ドキュメンタリー演劇とAI～相互作用の可能性」 イリーナ・カスティリャンチャンカ（大阪大学中之島芸術センター 特任研究員）
 話題提供2「音楽ストリーミングサービスのアルゴリズムとELSI」 岸本 充生（大阪大学ELSIセンター センター長）
 「アート×ELSIを考える vol.2」（11/20 @中之島センター）
 話題提供1「AIによる・用いた創作と著作権法」 赤坂 亮太（大阪大学ELSIセンター 准教授）
 話題提供2「人工知能はいかにして人の創造性を学ぶのか？」 内藤 智之（大阪大学大学院医学系研究科 准教授）
- シンポジウム「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」（2024年3月15日実施）に協力

世界トップレベル研究拠点（WPI）「ヒューマン・メタバース疾患研究拠点（PRIME）」（＊継続）

- ・ 岸本センター長がELSI研究分野におけるPIとして参画

大阪大学先導的学際研究機構「新たな防災」を軸とした命を大切にする未来社会研究部門との連携（＊継続）

- ・ 福田総合研究部門長が兼担し、運営会議に参画。ELSIを踏まえた都市防災DXの在り方の検討に関し、ELSIセンター総合研究部門が先導的学際研究機構「新たな防災」を軸とした命を大切にする未来社会研究部門と連携

大阪大学産業科学研究所との連携（＊継続）

- ・ 大阪大学産業科学研究所の家裕隆教授が研究代表者であるJST未来社会創造事業「発電と農業を融合した太陽光エネルギー有効利用システムの開発」に福田総合研究部門長、倉田招へい教授、三部招へい教授及び山本特任助教（常勤）が研究開発参加者として参加

医学系研究科保健学専攻との連携（＊新規）

- ・ AI活用による産前からの縦断的児童虐待リスク判定と体制構築に向けた基礎研究におけるELSI研究に福田総合研究部門長が参画

学内連携

学内組織／研究者との連携

3

量子情報・量子生命研究センター（QIQB）との連携（＊新規）

- 量子コンピュータのELSI（Ethical Legal Social Issues; 倫理的・法的・社会的課題）について、ムーンショット目標6とムーンショットELSI分科会の関係者を招いて、「量子コンピュータのELSI」検討会を開催（2023年9月12日）

データバリエティフロンティア機構（IDS）との連携（＊新規）

- 画像生成AIにおけるバイアスについて共同研究を開始
- 最初の成果を論文誌に投稿するとともに、プレプリントを掲載

The screenshot shows the arXiv page for the paper "Situating the social issues of image generation models in the model life cycle: a sociotechnical approach" by Amelia Katirai, Noa Garcia, Kazuki Ide, Yuta Nakashima, and Atsuo Kishimoto. The paper is in the "Computer Science > Computers and Society" category. The abstract discusses the race to develop image generation models and the need to address social issues. The page includes a search bar, a "Download PDF" link, and a "References & Citations" section.

arXiv > cs > arXiv:2311.18345

Search... All fields Search

Help | Advanced Search

Computer Science > Computers and Society

[Submitted on 30 Nov 2023]

Situating the social issues of image generation models in the model life cycle: a sociotechnical approach

Amelia Katirai, Noa Garcia, Kazuki Ide, Yuta Nakashima, Atsuo Kishimoto

The race to develop image generation models is intensifying, with a rapid increase in the number of text-to-image models available. This is coupled with growing public awareness of these technologies. Though other generative AI models—notably, large language models—have received recent critical attention for the social and other non-technical issues they raise, there has been relatively little comparable examination of image generation models. This paper reports on a novel, comprehensive categorization of the social issues associated with image generation models. At the intersection of machine learning and the social sciences, we report the results of a survey of the literature, identifying seven issue clusters arising from image generation models: data issues, intellectual property, bias, privacy, and the impacts on the informational, cultural, and natural environments. We situate these social issues in the model life cycle, to aid in considering where potential issues arise, and mitigation may be needed. We then compare these issue clusters with what has been reported for large language models. Ultimately, we argue that the risks posed by image generation models are comparable in severity to the risks posed by large language models, and that the social impact of image generation models must be urgently considered.

Subjects: Computers and Society (cs.CY)

Cite as: arXiv:2311.18345 [cs.CY]
(or arXiv:2311.18345v1 [cs.CY] for this version)
<https://doi.org/10.48550/arXiv.2311.18345>

Submission history

From: Amelia Katirai [view email]
[v1] Thu, 30 Nov 2023 08:32:32 UTC (546 KB)

Access Paper:

- Download PDF

Current browse context: cs.CY

< prev | next >
new | recent | 2311

Change to browse by: cs

References & Citations

- NASA ADS
- Google Scholar
- Semantic Scholar

[Export BibTeX Citation](#)

Bookmark

学内連携

学内組織／研究者との連携

4

大阪大学の学生及び教職員を対象とした生成AIの利用についてのガイドライン作成に貢献

2023.4.17 Mon 学生

生成AI（Generative AI）の利用について

学生の皆さんへ

自然言語やプログラムコード、画像などさまざまなメディアを、ユーザーの質問に応じて生成できる生成AIの開発が急速に進んでいます。例えば、ChatGPTのような自然言語AIチャットボットは、インターネット上に存在する膨大な量のテキストデータを使い、与えられた文脈における単語やフレーズを予測して、求められた要望に対する文章等を生成します。このような生成AIに適切な問いや情報を与えることで、さまざまなタスクを、従来よりもはるかに洗練された方法で支援することが可能となり、効率的に作業を進めることができます。そのため、適切に使うことができれば、大変有用なツールになります。

しかしながら、このようなツールは、さまざまな問題点に留意しながら利用しなければなりません。まず、インターネット上の情報は、正しいものばかりではなく、生成AIで作られた文章には誤りが含まれることもあります。生成AIから得られた回答を、その真偽を正しく判断せずに自分の言葉として発信した場合、さまざまなリスクをはらむことがあります。このリスクについて、一人ひとりが認識してください。

生成AIへ投げかけた質問事項やその記載内容が、システムに蓄積・学習される可能性があり、情報の漏洩に繋がる恐れがあります。個人情報や機密情報を提供しないように注意してください。また、特に画像生成AIでは、他者が作成した画像や写真などを取り込むこと自体が著作権侵害となる可能性がありますので、注意してください。

生成AIツールで成果物を作成するだけでは、学びは深まりません。高等教育の意義は、さまざまな情報を活用し、自らの考えを創り上げ、さらには、自らと異なる意見や考えに耳を傾けて、人と人との対話を通して独創的な考え方やアイデアを生み出すところにあります。大学での学びは学習するプロセスや豊かな人間性を育むための人的交流も重要であることを認識してください。大阪大学は、皆さんがこれからの人生で遭遇する深刻な問題、さらには社会が抱える複雑な課題について、社会のステークホルダーとともに考え、解決に向かって尽力できる人材として活躍することを望んでいます。大阪大学での日々の生活における、ゼミナールや研究室などでの研究活動における緊張感や充実感、実験での成功体験や時には失敗する体験、授業でのプレゼンテーションを終えた後の達成感、といったすべての経験がその糧になると信じています。学びの一つ一つのプロセスを大切にしてください。

生成AIの倫理的・法的・社会的課題としての論点について、本学 社会技術共創研究（ELSI）センターが2023年4月にELSI NOTE No.26『生成AI（Generative AI）の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）論点の概観：2023年3月版』としてまとめています。このような話題に興味がある学生のみならず、ぜひ、ご参照ください。



国立大学法人 大阪大学
〒555-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
TEL: 06-6877-5111 (内)
www.osaka-u.ac.jp

Press Release



2023年4月18日

分野：社会科学系

キーワード：ELSI、生成 AI、ChatGPT

生成 AI をめぐる ELSI 論点をまとめたレポートを発表 —生成 AI が含む倫理的・法的・社会的課題の現在地—

【研究成果のポイント】

- ◆ 社会に急激に広まる生成 AI(Generative AI)^{*1}に関して、2023 年 3 月末時点の動向や、ELSI(Ethical, Legal and Social Issues／倫理的・法的・社会的課題)^{*2}論点をまとめたレポートを発表
- ◆ 生成 AI の現在地を把握し、懸念される問題や、それらの課題にどのように向き合っていくべきかを考える際の基礎資料となることが期待される
- ◆ 大阪大学では、このレポートを参考にして、学生及び教職員を対象に生成 AI の利用についてのガイドラインを定めた。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2023/04/17001>

<https://elsi.osaka-u.ac.jp/news/2129>

学内連携

教育プログラムの提供

大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）フォーラムでの講演

- 令和5年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）フォーラム（2023年9月20日開催）において、講演「生成AIを巡る倫理的・法的・社会的課題（ELSI）とグローバルな政策動向」（担当：岸本 充生 センター長）

大阪大学SEEDSプログラム（大阪大学の教育研究力を活かしたSEEDSプログラム～未来を導く傑出した人材発掘と早期育成～）への高校生向けワークショッププログラムの提供

- 講義「新しい科学技術が社会に受け入れられるためには？」（2023年12月23日実施）
- SEEDS2023分野横断型ワークショップ「『新しい科学技術との付き合い方』を考える」（2024年1月21日実施）

大学院等高度副プログラム「科学技術と倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」の提供を開始

- 2023年度より、大学院等高度副プログラムの1つとして、新しく「科学技術と倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」（開講部局：大阪大学COデザインセンター）の提供が始まり、社会技術共創研究センター（ELSIセンター）も連携部局としてプログラムの実施に参加

など

学内連携

ELSI共創プロジェクト研究活動費の公募（3年目）

ELSIセンター兼担教員との連携強化などを目的として、2023年夏に学内公募を行った。**9件**のプロジェクトが実施された。

開かれた知の創出および実践の場の形成に関する比較研究 研究代表者：山崎 吾郎（coデザインセンター）

望ましい防災DXの在り方の構想に向けた調査研究 研究代表者：永原 順子（人文学研究科）

社会のなかの学術・課題の協働的探究：オルタナティブなELSI/RRIパラダイムの可能性にむけて 研究代表者：森下 翔（ELSIセンター）

高等教育におけるChatGPTの活用とELSIに関する研究 研究代表者：李明（国際共創大学院学位プログラム推進機構）

災禍についての共同研究を遂行するための次世代研究拠点の形成：日韓米の研究者を招聘する国際ワークショップの開催を通じて 研究代表者：標葉 隆馬（ELSIセンター）

高レベル放射性廃棄物処分地選定プロセスにおけるELSI課題の抽出 —北海道寿都町の事例をもとに— 研究代表者：八木 絵香（coデザインセンター）

AI・VR技術によるアート・創作等諸表現におけるELSI議題の探索的抽出 研究代表者：鹿野 祐介（coデザインセンター）

ファッションビジネスにおける「倫理」と語り 研究代表者：井出 和希（感染症総合教育研究拠点）

地域住民と大学の「共創」を育む対話手法に関する研究 研究代表者：佐野 桂子（共創機構）

学外連携

産業界との連携

1

株式会社電通からの受託研究

- ・ 受託研究「データビジネスにおけるELSIに関する研究」（2021年1月～）の継続
- ・ パーソルテンプスタッフ株式会社にて「パーソナルデータにまつわるELSIワークショップ」の実施（2023年12月13日）
- ・ オンラインアンケート調査「データビジネスにおけるELSI意識調査」（調査中）

※2024年4月以降も継続予定



株式会社メルカリとの共同研究

- ・ 共同研究「Co-innovationで切り拓く、最先端の研究・ビジネス領域の社会実装を加速させるELSI実践研究 ～ELSI対応なくしてイノベーションなし～」開始（2023年4月～2026年3月）
- ・ 科学技術社会論学会 第22回年次研究大会において、オーガナイズドセッション「ELSI/RRIをめぐる研究開発実践 ー大阪大学社会技術共創研究センターと株式会社mercari R4Dの産学連携を通じた知識生産ー」の実施（2023年12月10日）
- ・ 株式会社メルカリの研究開発組織「mercari R4D」とクロス・アポイントメント協定を締結（2023年8月開始）
- ・ ELSI NOTE（No.29、36）の発行など



※2024年4月以降も継続予定

学外連携

産業界との連携

2

日本電気株式会社（NEC）との共同研究

- 共同研究「顔認識技術の社会実装における社会技術の研究」（2022年7月～2024年3月）の継続
- NECから特任研究員の受け入れ（在籍出向）（2023年5月開始）
- 「顔認証技術の適正利用に向けた視点・論点」の策定に向けた議論の継続など

※2024年4月以降も継続予定

株式会社リコーとの共同研究

- 共同研究「人を対象としたデジタルサービスにおけるELSIガバナンスの研究」（2023年5月～2024年3月）の開始
- リコーの共同研究メンバーが、講義「倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：実践編」にゲスト講師として参加など

※2024年4月以降も継続予定

日本放送協会 放送技術研究所（NHK技研）との共同研究

- 共同研究「ELSIに配慮した研究推進のための手引きの策定」（2022年9月～2024年3月）の継続
- 「ELSIに配慮した研究推進のためのハンドブック」の策定に向けた議論の継続
- NHKの共同研究メンバーが、講義「科学技術コミュニケーション演習」にゲスト講師として参加など



学外連携

産業界との連携

3

PwCコンサルティング合同会社との共同研究

- 共同研究「Responsible Quantum Innovation（責任ある量子技術開発）」（2023年9月～2024年8月）の開始
- ELSI NOTE（No. 38）の発行など

※2024年4月以降も継続予定



クモノスコーポレーション株式会社との連携

- 令和5年度成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）「AIノイズ除去技術を用いた点群データによる3Dバーチャル空間サービスシステムの研究開発」総括研究代表者：牧宏明（クモノスコーポレーション株式会社）（2023年8月～2025年3月）の開始
- など

※2024年4月以降も継続予定



学外連携

産業界との連携（人材交流）

5月、共同研究先のNECから特任研究員が在籍出向を開始

- 2023年10月に研究・イノベーション学会第38回年次学術大会にて研究成果を口頭発表
田中ら（2023）「顔認証技術の適正利用に向けた研究」
- 2024年3月に電子情報通信学会 総合大会にて研究成果を口頭発表
田中ら（2024）「顔認証技術の適正な社会実装に向けたリスクアセスメント手法」

8月、株式会社メルカリの研究開発組織「mercari R4D」とクロス・アポイントメント協定を締結

「mercari R4D」、大阪大学ELSIセンターと産学のコミュニティを超えた人材交流を開始



～人文社会科学系の研究者を受け入れ、新興技術を社会実装するためのELSIへの取り組みを強化～

株式会社メルカリ（以下、メルカリ）の研究開発組織「mercari R4D（アールフォーディー）」（以下、R4D）は2023年8月1日より、大阪大学社会技術共創研究センター（以下、大阪大学ELSIセンター）と、クロス・アポイントメント協定を締結し、産学のコミュニティを超えた組織間の人材交流（以下、本取り組み）を開始することをお知らせいたします。本取り組みは、産学での深い交流を通じて、ELSI（倫理的・法的・社会的課題／Ethical, Legal and Social Issues（エルシー））研究のさらなる強化を目指しており、8月より大阪大学ELSIセンターに在籍する研究者1名がメルカリでの業務に従事いたします。

学外連携

アカデミアとの連携

1

研究プロジェクト「萌芽的科学技术をめぐるRRIアセスメントの体系化と実装」

- JST-RISTEX『科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム』に採択（研究代表者：標葉 隆馬（大阪大学ELSIセンター））（2020年9月～2024年3月）
- 日本科学振興協会（JAAS）年次大会2023（2023年10月7日～13日開催）において、ブース「DNAでロボットをつくる未来をわたしも一緒に考える」を出展

など



研究プロジェクト「身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発」

- ムーンショット型研究開発事業 ムーンショット目標1「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」に採択（研究代表者：南澤 孝太（慶應義塾大学））（2020年12月～2025年11月）
- 第9回CAS研究会「CAと人間のコミュニケーション」@オンラインの開催（2023年12月1日）
- 「アバターロボットを用いた働き方の導入ガイドライン2024」の公開（2024年3月18日）

など



学外連携

アカデミアとの連携

2

研究プロジェクト「教育データ利活用EdTech（エドテック）のELSI対応方策の確立とRRI実践」

- JST-RISTEX『科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム』に採択
- 滋賀大学、南山大学、岡山大学、京都大学、埼玉大学、福岡大学など、他大学の研究者との連携
- ELSI NOTE（No.31）の発行
- 「大阪大学共創DAY@EXPOCITY 2023」（2023年7月8日開催）に、ブース「どうなる！？未来の学校！！」を出展

など



脳情報通信融合研究センター（CiNet）との共同研究「脳情報通信融合分野をめぐるELSI」

- 共同研究「脳情報通信融合分野をめぐる倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」（2022年12月～2026年3月）
- 文献レビューの成果が公表
Ishida S, Nishitsutsumi Y, Kashioka H, Taguchi T and Shineha R (2023) A comparative review on neuroethical issues in neuroscientific and neuroethical journals. *Front. Neurosci.* 17:1160611.

など



主なイベント（シンポジウム、ワークショップ等）

シンポジウム 「研究倫理審査をアップデートする：ELSI/RRIを組み込んだ技術開発・社会実装の作法」

- ・ 科学技術社会論学会 第22回年次研究大会の一環として大阪大学ELSIセンターが共催するシンポジウムを開催
- ・ 学会参加者 約100名（登壇者や関係者を含む）が大阪大学豊中キャンパス 基礎工学国際棟シグマホールで参加
- ・ YouTube Live での配信も行い、約80名が配信を視聴

趣旨説明、話題提供 1「研究倫理審査をRRI（責任ある研究・イノベーション）の中核に位置づける」岸本 充生（大阪大学 ELSIセンター）

話題提供2「科学技術社会論学会会員の研究倫理審査に関する経験」小門 穂（大阪大学 大学院人文学研究科）

話題提供3「研究倫理審査の現状と課題：大阪大学における現状を例に」鈴木 美香（大阪大学 研究オフィス）

パネルディスカッション：岸本 充生、小門 穂、鈴木 美香、他

主催：科学技術社会論学会 第22回年次研究大会実行委員会

共催：大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）

協力：大阪大学COデザインセンター



科学技術社会論学会 ― 第22回年次研究大会・総会(2023年度)内
実行委員会記念シンポジウム

**研究倫理審査をアップデートする：
ELSI / RRIを組み込んだ
技術開発・社会実装の作法**

2023.12.9.SAT 13:30 - 15:30
オンライン開催 (YouTube Live での配信を予定)

 ELSI

主なイベント（シンポジウム、ワークショップ等）

ELSI Forum 2023

『社会技術』の作法を作る：企業の研究・イノベーションをレスポンシブルにするには

- ・ 研究開始前から社会実装後までの科学技術のライフサイクルを通じて、どのような審査や仕組みが必要なのかを考える。
- ・ 第1部では2023年度にELSIセンターと共に研究を進めてきた3名から具体的な事例について紹介。
- ・ 第2部では、研究から研究成果の社会実装までを視野に入れた「責任ある研究・イノベーション（RRI）」を実践するために必要とされる研究倫理審査や関連する仕組み・ツールを参加者と検討する。

事例1「ELSIに配慮したメディア技術研究：ハンドブックの策定とその活用に向けて」宮崎 勝（NHK 放送技術研究所）

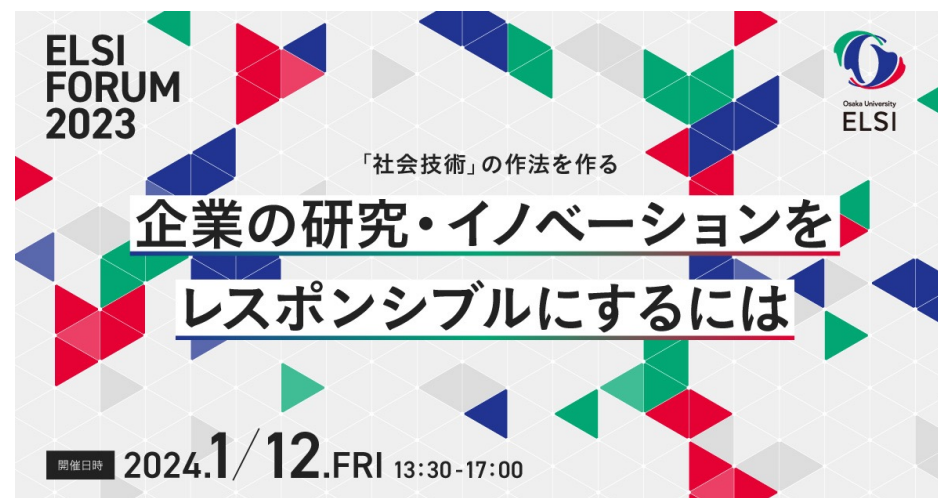
事例2「ELSI・RRIを企業に実装する：研究開発倫理審査の高度化」井上 眞梨（株式会社メルカリ mercari R4D）

事例3「顔認証が利活用される社会を目指して：顔認証技術の適正利用に向けた「10の視点」の策定と実践」加藤 英人（NEC）

主催：大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）

協力：大阪大学COデザインセンター

後援：公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）



主なイベント（シンポジウム、ワークショップ等）

「大阪大学共創DAY@EXPOCITY 2023」内企画「RADIO ELSI：どうなる！？未来の学校！！」

- ・「大阪大学共創DAY@EXPOCITY 2023」（主催：大阪大学）（2023年7月8日開催）において、ブースを出展
- ・JST/RISTEX「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」研究開発プロジェクト「教育データ利活用EdTech（エドテック）のELSI対応方策の確立とRRI実践」の一環として実施
- ・来場者には、「学力・学習チャレンジアプリ」というEdTechの一種を体験してもらいつつ、未来の学校にまつわるエピソードや意見を“お便り”という形式で募集。集まった“お便り”を元に、会場では、ラジオ番組風のトークセッションを開催
- ・ブース来場者は160名以上。集まった“お便り”は84通

出展者：大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）

企画：大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）

デザイン・イラスト：アトリエ・カプリス

協力：公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）



そのほかのイベント 1

ELSIセンター研究会

4件

- ・「アート×ELSIを考えるための美学入門」（2023年4月24日）
- ・「未来の社会像を創造するーデータ取引市場における医療データ取扱いに関する論点整理ー」（2023年10月5日）
- ・「音楽・美学・ELSIの対話」（2024年2月19日）
- ・「芸術と政治について（再び）考える」（2024年3月18日）

CAS（Cybernetic Avatar and Society）研究会 1件

*ムーンショット研究開発事業「身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発」の一環として、東京大学未来ビジョン研究センターと共催

- ・第9回CAS研究会「CAと人間のコミュニケーション」（2023年12月1日）

KAIST Science and Technology Policy Departmentとの共同開催 1件

- ・「ディザスター・ハグギョ2023 Act 3」（2023年7月31日から8月8日）

大阪大学 量子情報・量子生命研究センター（QIQB）との共同開催 1件

- ・「『量子コンピュータのELSI』検討会」（2023年9月12日）

株式会社メルカリとの共同開催 1件

- ・「男女間賃金格差是正のためのケーススタディ・ワークショップ」（2023年11月13日）

情報通信学会AIネットワーク法・政策研究会との共同開催 1件

- ・研究会「デジタルツインをめぐる倫理的・法的・社会的課題」（2024年2月16日）

理化学研究所革新知能統合研究センター（AIP）分散型ビッグデータチームとの共同開催 1件

- ・国際セミナー「ソーシャルメディア：デジタルな対人交流のリスクと倫理的側面」（2024年2月28日）

その他のイベント 2

共催イベント

10件

- サイエンスカフェ@千里公民館「どうする？どうなる？クルマ社会の未来」（2023年6月15日）
- ワークショップ「気候市民会議の多様な開催を考える」（2023年9月1日）
- ワークショップ「気候市民会議の多様な開催を考える・その2」（2023年12月22日）
- セミナーシリーズ「つなぐ人たちの働き方（2023年度冬）」（2023年12月12日～2024年1月23日）
- 科学技術社会論学会 第22回年次研究大会（2023年12月9日、10日）
- 日本のELSI／RRIの未来を拓く：「ELSI Hiroshimaワークショップ2024」（2024年3月4日、5日）

協力イベント

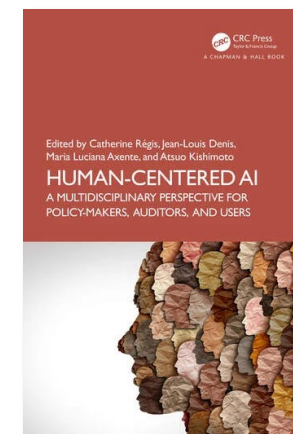
2件

- 第6回SSI研究者フォーラム「コミュニティにおける『物語』や『ルール』を紐解く -民俗学・教育社会学・倫理学の経験から-」（2023年5月29日）
- URA実務者養成講座＜ELSI編＞ 研究者と伴走するためのELSI/RRIとその取組（2024年2月16日）

国際的活動

世界主要大学の連合体であるU7+での活動

- 2019年、フランスでのG7サミット開催に合わせて創設されたU7+サミットで採択された原則5のアクション4に基づくグループ、HAICU（モントリオール大学が主導）のメンバーとして、岸本 充生 センター長が活動
- 2022年1月にはウェブサイト（<https://haiculab.org/>）がオープンし、同時に日本語サイトも公開
- 書籍 “Human-Centered AI: a Multidisciplinary Perspective for Policy-Makers, Auditors and Users”の出版（Routledge社からRoutledge’s Chapman & Hall/CRC Artificial Intelligence and Robotics Seriesの1つとして）が2024年3月刊行



国際的なネットワーク形成

- モントリオール理工科大学 Nathalie de Marcellis-Warin教授、Robert Normand教授が、学生16名とともに、大阪大学ELSIセンターを訪問（2023年5月16日）
- KAIST Science and Technology Policy Departmentとともに「ディザスター・ハグギョ2023 Act 3」（2023年7月31日から8月8日）を開催

発行物

ELSI NOTEの発行 1

国内外のELSIに関する研究・実践活動の最新動向を紹介する「ELSI NOTE」を公開。2023年度は **13本** を公開した。

ELSI NOTE No.26 生成AI（Generative AI）の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）論点の概観：2023年3月版 カテライ アメリア、他

ELSI NOTE No.27 ラグジュアリーファッションビジネスにおける「倫理」への訴求：探索的事例検討 井出 和希

ELSI NOTE No.28 研究公正をめぐる議論動向: NASEM報告書 Fostering Integrity in Research（2017）の概要と要点 石田 柊

ELSI NOTE No.29 「量子の未来」をめぐる23の話題：株式会社メルカリ mercari R4D量子情報技術チームへの重点的グループインタビュー 森下 翔、他

ELSI NOTE No.30 生成AIの倫理的・法的・社会的課題（ELSI）論点の概観：2023年4～8月版 ーグローバルな政策動向を中心にー 岸本 充生、他

ELSI NOTE No.31 教育データEdTechのELSI（倫理的・法的・社会的課題）を考えるための国内外ケース集 若林 魁人、岸本 充生

ELSI NOTE No.32 COVID-19流行とフードテックの浸透に伴う食に関する行動変化と気づきの関連の分析 村上 道夫、他

ELSI NOTE No.33 X（旧：Twitter）のバズツイートの変化から見るプラットフォーム事業者の施策がもたらすELSI 若林 魁人

ELSI NOTE No.34 音楽ストリーミングサービスのアルゴリズムとELSI（倫理的・法的・社会的課題） 岸本 充生、チェンルー トレイシー

ELSI NOTE No.35 デジタル技術を活用した防災に関する課題の体系的整理 山本 展彰、他

発行物

ELSI NOTEの発行 2

国内外のELSIに関する研究・実践活動の最新動向を紹介する「ELSI NOTE」を公開。2023年度は **13本** を公開した。

ELSI NOTE No.36 人事データ分析を利用した男女間賃金格差是正の取組み：株式会社メルカリにおけるケーススタディ 工藤 郁子、他

ELSI NOTE No.37 インパクトアセスメントツール“The Moral-IT Deck”の日本語化とワークショップの方法 鹿野 祐介、他

ELSI NOTE No.38 RRIを量子技術領域へ適用する：政策レビュー 榎本 啄杜、他

ELSIセンターが取り組む人材育成

インパクトアセスメントツール「モラル IT デッキ」の公開

- 科学技術が社会にもたらす様々な影響を、対話を通じて評価・検討するために用いることを想定して開発
- ELSIセンターが連携して実施する授業や研修などで本ツールを活用



URA実務者養成講座＜ELSI編＞「研究者と伴走するためのELSI/RRIとその取組」に協力

- 水町准教授、井出特任准教授（兼担）、鹿野特任助教（兼担）が講師として登壇（2024年2月16日実施）

日本のELSI／RRIの未来を拓く「ELSI Hiroshimaワークショップ2024」を共催

- 若手研究者を対象とし、次世代ELSI／RRI人材の育成を目指したワークショップを、広島大学共創科学基盤センターとともに開催（2024年3月4-5日実施）

広報活動

メディア掲載

プレスリリースなど

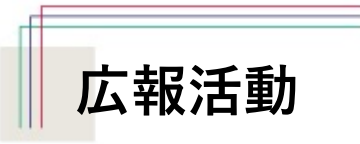
2件

- プレスリリース「生成AIをめぐるELSI論点をまとめたレポートを発表」（2023年4月18日公開）
- プレスリリース「大阪大学 ELSI センターと PwC コンサルティング『責任ある量子技術開発』のイノベーションガバナンス構築を目指し共同研究を開始」（2023年9月13日公開）

コメントなどが掲載された新聞記事やウェブメディアなど

37件 以上

- 朝日新聞「ChatGPTの急拡大『新技術の練習問題に』 阪大が課題を整理」（2023年4月23日掲載）
- 日本経済新聞「大阪大学や中央大学、先端技術の倫理探る」（2023年6月28日掲載）
- 読売新聞「先端科学 社会への影響は…ELSI研究 活発化」（2023年11月29日掲載）
- など



広報活動

ウェブサイト、SNSの運用

ウェブサイト

<https://elsi.osaka-u.ac.jp/>

<https://elsi.osaka-u.ac.jp/en/>

Facebook

<https://www.facebook.com/ELSIosakaUniv/>

X (Twitter)

https://twitter.com/ELSI_center